



JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

'64 3月号

目 次

- 1 作品集の発刊・研究的集会を望む
＝東京支部アンケート＝
- 2 役員改選と仕様書専門委を設置
＝大阪支部委員会＝
- 3 改選は通信投票で
＝東京支部委員会＝
- 4 新入会員御紹介
＝森谷延周君及び準会員四名＝
- 5 私のふれてきたソ連と東欧諸国 (2)
＝川喜田煉七郎＝
- 6 会費納入のお願い
- 7 会員の近況
- 8 業界のうごき
- 9 事務局より

日本室内設計家協会

作品集の発刊・研究的集會を望む

—— 東京支部アンケートの結果 ——

東京支部では次年度の事業計画を立案するにあたり、会員諸兄に対しアンケートを求めているが、会員の半数にあたる44名の回答がありこのほど集計を終り次のような結果をえた。

第1問 新しい事業を始めるとしたら、次のうち第一に取り上げるべきと思うものに◎印第二に○印をつけて下さい。

区 分	第 一 希 望		第 二 希 望		合 計 %
	数	%	数	%	
作 品 集 の 発 刊	14	32%	9	18%	50%
展 覧 会	12	27%	8	16%	43%
デザイン講座を開く	5	11%	7	14%	25%
全 国 大 会	0	0	6	12%	12%
見 学 旅 行	7	16%	9	18%	34%
常設展示場の設置	6	14%	11	22%	36%
合 計	44	100%	50	100%	200%

以上の結果から見ると『作品集の発刊』を希望するものが最も多く、第一第二希望を合せると、回答者の半数になる。

これに次ぐものは『展覧会』で合計で43%、常設展示場の設置ならびに見学旅行などがそれぞれ合計で36%及び34%をしめている。

第2問 月例会はどんな形で開くことを希望しますか、適当と思うものに○印をつけて下さい。

区 分	数	回答者数対比
懇 親 会	5	11 %
帰 国 報 告 会	7	16 %
工 場 見 学 会	14	32 %
作 品 見 学 会	15	34 %
テーマを定めた座談会	25	57 %
講演会 (I.D. 店舗等専門家の話)	14	32 %
合 計	80	

この結果、テーマを定めた座談会が最も多く、回答者の半数を越す 57 % の希望があることがわかった。

これにつぐものとしては、作品見学会、工場見学会、講演会で、回答者の $\frac{1}{3}$ にあたる希望者数である。これらの結果は、今迄懇親と帰国報告が主体になつて運営されていた、月例会よりももつと研究的内容を持つた月例会を希望する者が多いことが明らかになった。

第3問 研究会にどんなテーマを取り上げたら良いか三つ○印をつけて下さい。

区 分	数	回答者数対比
集団住宅 (公団住宅) の住空間のあり方	14	32 %
市販家具の批判とこれからのあり方	28	64 %
伝統と近代造型について	18	41 %
技術研究会・(構造, 材料, 塗装, 金物, プラスチック 表現技術)	26	59 %

区 分	数	回答者数対比
専門講師の話を中心にほり下げた研究	18	41%
展覧会等の事業を中心とした批評会	2	5%
デザイナー一般の研究会	17	39%
合 計	123	

この結果は『市販家具の批判とこれからのあり方』が64%、『技術研究会』が59%でそれぞれ過半数をしめ、研究テーマとしては、抽象的なテーマよりも、仕事に直結する問題を取りあげることが希望されている。

これらの結果は、新役員によつて立案される東京支部の事業方針に取り入れられ、運営されることになるだろう。

尙その他の御意見・御希望には次のようなものがあつた。

☆ 建材関係の研究会における、とりあげ方式については、当協会として受入態勢を整えてから行つた方が良い。先日の日東紡のようなケースは、全く好ましくないと思はれる。縦型よりも横に連れた方が勉強になり比較対象的であり、本会の立場が守られてゆくと思います。

☆ 会員の末端まで活動に参加できるような企画が欲しい。現在は一部の人々の活動にしか過ぎない。全員もれなく集める方法はないものか。

☆ われわれ会員は少くとも デザインの分野において同じ次元に立つておると共通の広場を持つて居るはずである。A I D の様な営利と P R . を第一にした団体であるべきではないと考へる。日本においては未だでき上つて居ないインテリアデザイナーの地位を固める意味においても、今日のインテリアのあり方乃至は基本的なデザインポリシーについて多くの意見が

交換され討論がくりかえさるべきである。それが又会員間の連帯と緊密につながる。報告会・見学会などは全く二義的なものであると考へているから

☆ 専門の関連業界以外の一般対社会的にインテリアデザイナーとその会の存在をアピールする事を積極的に実行したい。何か一般の報道機関を利用する方法を考へましょう。

☆ 委員会は会の具体的運営に必要ですが、会員の多くの人を何らかの専門部会に参加させ、委員以外の人を中心に動く方向に進むべきと思います。

☆ お世話下さる方は大変と思いますが、第一問の中どれか実行に移して戴きたいと思います。

役員改選と仕様書専門委を設置

—— 大阪支部委員会 ——

日 時 2月21日(金) 18.10～20.15

場 所 日建設計工務 1F 第3応接室

出席者 袴田・飯田(俊)・川崎・岡村・渡辺

1. 理事会報告の件(別紙理事会報参照)

- ・ 月報のP.R. 配布先の件

公報委員により選定、次回委員会に提出。

- ・ 標準仕様書専門委員会設置の件

委員は関係深い設計事務所、家具メーカー、造船関係より選定する。

専門委員は成るべく支部委員以外より出す。但し支部委員1～2名を入れる。

メンバー

合田(日建設計工務)、三上(大丸木工)、鍋谷(大阪木材工芸)、
阪野(大和工業)、沢野(宮崎木材工業)、種村(川崎重工業)、
渡辺(安井建築設計事務所) 以上7名。

委員長は委員の互選とする(成るべく支部委員長を避けたい)。

専門委員には協会より委嘱状を出す。

- ・ 本部会費中より10万円本部へ送付の件。

2月24日(日)事務所より振替口座へ入れる。

2. 月例会の件

日 時 3月20日頃開催する。 17.00～20.00

場 所 大阪科学技術センターを樋口氏の世話にて交渉する。

演題及講師

「工業デザインと室内デザイン」(案)に関して大阪デザイン
ハウスの坪居恭平氏又は彼を通じて適当な方。講演(スライド
共)2時間以内、討論会2時間 計4時間以内。交渉岡村氏。

3. 昭和39年度支部役員選挙の件。

3月中旬までに選出する如く準備する。

昨年同様出来るだけ若い人に出て戴く如くP.R.する。

選挙管理委員メンバーは事務所に近い正会員を選ぶ。

メンバー

合田(日建設計事務所)、袴田(十合百貨店)、飯田^俊(高島屋)、
川崎(大丸)、上辻(阪急百貨店)、事務員磯田(日建設計事務所)、
以上6名。

委員長 川崎

4. 賛助会員勧誘の件

別紙勧誘先一覧表右欄外に記入なき先で関係のある方は事務所(日建設
計工務)又は事務局(高島屋飯田)まで御連絡下さい。尚、佐々木織物、
東和織物は岡村氏、東洋紡インテリア、ライト製作所、日東化学、三菱
レーヨン^は渡辺氏が引き受けられました。

住江織物5口、東洋紡インテリア1口は渡辺氏の御尽力により決定しま
した。

特に合板、繊維板、塗料関係をお願いします。

先方をお願いに上る時必要なれば支部役員等同道します故、事務局へ適
当な方の氏名を御連絡下さい。

案内状、賛助会員申込書、領収書は事務所(日建)にあります故部数を
御申し出下さい。

5. 理事会費請求の件

本部役員の宿泊費、旅費は残金の本部会費より支出する。

支部役員の同上分は支部支出とする。

6. 日本インテリア創世史（仮称）の件

明治に日本に洋式文化が入って以来私達の先輩が歩まれた道を、その生存者によつて何等かの方法 — 座談会、寄稿等 — で集録して置くことを事業部で計画、昭和39年度事業部委員に引継ぎ事業としてもよいかから立案されたい。

改選は通信投票で —— 東京支部委員会 ——

東京支部委員会は、2月29日川島織物事務室で開かれ、新年度総会の持ち方等を議題に審議し次のような決定を見た。

出席者 山口勇次郎、狩野雄一、今井一滋、松村勝男、中村圭介

中村富夫（監事）

1. 新委員の選挙は総会前3月中に通信投票を行い総会成立人員数以上に達したら改票して新役員を選び総会の承認を求める。

支部監事は旧来通り総会で選出をする。

2. 選挙管理委員は次の諸氏とする。

中村富夫（監事）、梶 高樹（監事）、鈴木栄二・桂田早苗（事務局）

3. 年度末にあたり会費納入を要請する。
4. 山内泉氏及び角井康男氏の両氏は3月末まで会費納入されなければ会に留まる意志がないと認め資格喪失の取扱いをする。
5. 新年度の方針の立案は新委員との合同で立案し、4月末頃総会開催を目標とする。

☆ 新 入 会 員 御 紹 介 ☆

◎ 若手のホープ 森 谷 延 周 君

2月理事会で森谷君の正会員としての入会が承認された。現在豊口デザイン研究所分室に勤務、天童木工の第一回コンペやグッドデザイン'61年に入選 室内93'号の新人登場にも紹介され活躍されているので、御存知の方も多いことゝ思います。

昭和14年生れ25才の若手で、都立工芸高校木材工芸科を卒業し東横渋谷店家具設計室に席をおいてからも、桑沢デザインにまなぶ等、なかなかの努力家

推薦者の豊口さんは『デザイナーとしての根性とデザインの追求力』を、原さんは『仕事を通じて一步一步努力してきた』姿を認め推薦されている。

審査対象となつた作品は『横浜東急ホテル・メインダイニングルーム』『越田商工ビル社長室・談話室・受付』『小田急百貨店8F大食堂』外 前記コンペ入選の椅子二点である。

◎ 準会員として下記の四名の方々の入会も承認されました。

この仕事を始められてまだ日も浅い方々ばかりです。皆様よろしく御指導下さい。

有 川 勲 一 （昭和8年9月13日生） 会員番号149番

勤 務 先 ㊤桂工務店

新宿区柏木1の99 鈴和ビル内

T E L (368) 5080

自 宅 新宿区柏木2-279 勝見方

・船 戸 美知子 (昭和14年12月26日生) 会員番号151番

勤務先 KAI INTERIORS-NISHIKAI ASSOCIATES

千代田区有楽町 三信ビル一階

TEL (591) 8759

自 宅 杉並区成宗3-511 森方

TEL (311) 2343

・横 山 紀 子 (昭和16年12月19日生) 会員番号152番

勤務先 KAI INTERIORS-NISHIKAI ASSOCIATES

千代田区 有楽町 三信ビル一階

TEL (591) 8759

自 宅 中央区西八丁堀4の6

TEL (551) 4789

・大 橋 滋 男 (昭和10年5月25日生) 会員番号154番

勤務先 KK天童木工製作所東京支店

TEL (431) 0212, 7943

自 宅 神奈川県藤沢市片瀬2696

私のふれてきたソ連と東欧諸国の デザインと店舗の全く新しい傾向

“ソ連では第2次販売革命がはじまっている”

川喜田 煉七郎

(2月号の続き)

◎ ショッピングセンター『 Gum 』

クレムリンのレーニン廟の前に、ソ連における最大のショッピングセンター「Gum」がある。セクションが半円形の光りのドームを3本ももってそこを3層のギャラリーが通り、誘導式階段を所々にそなえた面白い構造の総合的な大店舗である。ドームの中央に噴水(フォンタナ)が五色の虹を出している。これは革命以前の構造をそのまま文化遺産として受け継ぎ、これに社会主義店舗としてのあらゆる改造をほどこしたものである。

これはアメリカのセンターのような、百貨店とスーパーマーケットを中心として、専門店を集めた — という形式ではなく、先に述べた見本式ディスプレイを約800の業種に、巧みに平等に細胞的に組織化させたソ連独特の総合店舗式といえる。

どんな小さな店舗にも1人の書記長がいて、その商品の管理に仕入の選択に販売サービスに全責任をおっている。

一見すると、露店に等しいような店もあるが、その統制は実にキチンととれている。例えば簡単な陳列台に本を並べて売っている店があるが、その商品をよく見ると、チャンと専門化が行われていて、売り子はブライドをもって、その本のどれをも説明できるのである。決して「赤本屋」ではないのである。

アイスクリームの箱を肩からさげて売っているが、箱はキチンと衛生的

に整理されていて、アイスクリームは一定のパッケージに一定の数だけ入れている。声をあげて宣伝は少しもしないが、実によく売れている。売りがきれるとキッチンと箱をたたんで、本部に一時かえり、又新しい陳列の整理をして改めてでかけてくる。彼は「これで28回目であり、今日のノルマは25回で終わっている。」と私に語ってくれた。

ともかくこうした小さな衛生的な専門化・整理化が、細胞的に全面的に行われていて、アメリカにおけるがごとき販売の全体としての流れ作業は行われていない。

商品が少くて、それを追い求める消費の力が、終戦直後のヤミの時代のように猛烈に強い、従ってまだ「消費者は王様」ではないのである。

従って、商品が百花繚乱と花さいた時、はたしてこのまゝですむものかどうか、疑問はこのころのであるが、ともかく、そこには資本主義国にあるものと、全く違った異質の社会主義国の中にめばえた、まことに衛生的と見られる販売法の芽がたしかに見られるのである。そしてこの中から我々の反省の対照となり、参考になるものを見い出そうという努力が今日、たしかに我々には必要なのである。

◎ モスクワの銀座ゴーリキー通り

モスクワの銀座ゴーリキー通りは、人と人のウズである。女の子の服装は西欧なみに次第に整ってゆく。しかし、店舗は決して全部が、西欧なみにモダンとはいえない。その構造は社会主義の長所と短所を同時にもっている。しかし、第3期のデザインの勃興の波はここにもやってきて、ホテルに映画館に商店に、今までと全く違った新しい物を生みはじめたことは事実である。それは女の子のおしゃれの店「白樺」は、その中でも光って

いる。全体は店の前も内部もブラック・アンド・ホワイトのカラーコンディショニングで、店内は光をわざとおとして、三方の売り場を間接照明がてらしている。銀と白のアクセサリーは、黒い壁体の中から美しく浮き出して、店内は若い女の子のいさきれであまずっぱい香りに満ちている。

ソ連の女の子は今まさにおしやれに対して猛烈な勢いでとびついている感じである。しやれたハンドバックと絹のストッキングだけで、恋人はいつでもできそうである。

モスクワで我々の着く1週間前、全国美容おしやれ大会が行われたし、ファッションの管理局で行われるファッションショーはいつも満員である。

3,000名もはいる新しい映画館「ロシア」はゴーリキー街の四辻から右手の奥にさんぜんとかがやいて見られる。そのスクリーンは横に長く、ソ連独特の大きさをもった実におちついた色彩と新しいカットバックを使った拡大映画が、いつも上映されている。ピロディにのった上部のガラスの壁の内部は大規模なレフレッシュメントバーであり、そこから三方のテラスに出られる。私のいった時、第1回の上演が終って、このテラスから続くゆるい階段を、映画を見終って興奮した人々がゾロゾロとおりてくる場所であった。

アメリカでも日本でも映画の時代は終わったというのであるが、ソ連ではまさにこれからである。映画は、初期のアジプロ時代を終って、おちついた世界的視野をもった新しい長大な作品が次々と生まれてゆき、「広告テレビ」に荒されていない観衆の、まさに新しい魅力の対照になろうとしている。

◎ 間に合わせから次第に理想の線へ

社会主義の理想からいうと、都市と農村との間の社会的・経済的・文化的・生活的差異は、国中到處に平等に完全に解消することになっているが、今のところモスクワは終戦後必然的に少しずつふくれあがってしまっている。資本主義都市のような「都市の巨大化」・「都市の崩壊」や都心における自動車のラッシュは、さすがに見られないが、ネット時代以後、急速にたてられた、「ゲタばきアパート」は、都心から西南地区まで広がって、消費と販売を少しでも平等にひろげてゆこうとする。間に合わせの社会主義的手法が、到處に見られるのである。

これらのアパートの一階は不完全ながらことごとく店舗であって、食料品は午前7時からおそくまで、日曜も休んでいないが、その他の業種は、必要に応じてその開店、閉店時間とことごとく変えているのである。

しかしながら、前にあげた社会主義の理想の線に少しでも追いつこうとする努力は、榮んであって、1960年代にはいると、はじめて計画的な郊外のむしろ半農村的に合理的に分散した町々の姿が現われはじめている。そこでは、「ゲタばきアパート」は解消され、住居は専門に住居として機能をもちはじめ、一種の合理化された店舗の様式が、これも独立した完全な保育所・幼稚園・学校・公共食堂・住民の様々なサークル活動と場所と同時に形式されはじめている。そしてこの形式は農村の方へ順次大変な勢いで平等にまんえんしてゆき、とびとびではあるが、驚くような施設が野のまん中や山の中にも現われているのは事実である。

地下鉄その他の公共運輸機関はその線をここまで完全にのぼし、水・ガス・暖房の使用が無料となった住宅地区と同時に、日常生活および休息のためのよい条件をそなえた産業地区も形成され始めている。

到るところに電化・下水・給水施設・電話設備・そして緑化は必然的に完全になり、ストルミンクがいう「住宅群そのものが独立した完全な保養施設となり、それに所属して生活サービス専門の組織がつくり出され」ようとしているのである。そして「店舗」とは後者の一部になろうとしているとあってよいのである。

「ゲタばきアパート」のならんだ地区にも、都心の商店街にも、この生活サービスをともかく何等かの形で補なおうとする傾向は盛んであって、そのため「キオスケ」と称する移動店舗の構造の研究に力を入れているし、仲々すぐれたデザインが多いのである。中には、移動喫茶店の折りたゝみ移動の合理的な「大キオスケ」があって、これが組たて終った形はまことに気持のいいモダンそのものである。この店舗の構造はパネル式組合せアパートの構造と平行して、現在のソ連の建築中で、是非見るべきものの一つであろう。

◎ ソ連ではまさに第2次の販売革命がおこりつつある

我々は1週間前に開いたばかりの「モスコー」と称する「おしやれ専門のスーパーマーケット」を、こうした郊外の住宅地区で初めて見学するチャンスをもったのである。そして、それとは又別に、かかる郊外の中の新しく建設された店舗というものが、古い都心の商店街の店と如何なる点で相違するかを新しい立場で、学ぶこともできたのである。

おしやれのスーパーマーケット「モスコー」は、かつて構成主義建築の代表として「社会主義リアリズム」によつて完全に葬り去られた、コルビュジエの設計したセントロソニュース会館と全く同様な、総ガラスはり5階の建築である。「かゝるガラスの家はモスコーの気候にもなつくまい」

一といわれた1920年代の世界の先端を切った形式が堂々と新しい店舗形式としてここに改めて採用されたことに、ソ連の政治性と材料感との不思議な進転の姿を私はかいま見た気がした。

交叉するエスカレーターの採用によって、4階までの店舗は全く一体となり、その総合したおしやれのディスプレイは、まさに西欧の店舗も顔負けの有様であつた。販売は一種のセルフセレクトション形式のうちに、ソ連独特の一見単純な「細胞的な専門化」ともいうべき、例のやり方を、しかも一歩前進した方法において採用していくと同時に、この見学でむらがり集まってくるモスコーの女性のおしやれの現状を充分にうかがうこともできたのである。

郊外の新住宅地区の新しい店舗を見にゆく機会は、その翌日もたれたのである。それは規模においても、形式においても、都心の商店街の店と数等上であって、店主の言葉をかりると「郊外に全く新しい構想のもとにたちあがった生活サービスの施設が、ソ連民衆の支持をうけるのは、当然」なのだそうである。中でもおしやれの店・生活器具の店・耐久消費材関係の店・家具の店には、すぐれたものが多かった。最後に見せてもらったモスコー最良最大といわれる家具の店では、奥のストックや親しく店主の部屋までのりこんで、その「販売ノルマ進転表」までくわしい説明つきで見せてもらうことができたのである。それによると、モスコーの家具専門店には48あり、1つの専門管理局によって統制されており、昨年の実績などによって、月の販売ノルマがあたえられているというのである。しかし、その商品の仕入れ・選択・部分的改良・販売広告の技術・サービス・運搬・店員の訓練・採用などについては、店主の手腕が完全に発揮できるそうであり、「私の店ではこの月のノルマはとっくにパスして、その3倍にま

でゆこうとしている。」とうれしそうに言った彼の顔は緊張にはころびていなかった。ディスプレイの形式にも色彩管理（カラーコンディショニング）にも、生々した店員のサービスにも、その成績のほどをさっするにあまりあるものが見られたのである。

フルシチョフの最近の演説によると、ノルマを次々ともちあげていって苦しませることを今後一切やめて、むしろノルマは引きさげるべきだ — とある。

従ってこのノルマの合理的な進歩によって、個人的な所得は、一勿論、過去において経験したネップマンや小ブルジョアを形成しない範囲内において、向上するわけである。

そしてそこにソ連がスターリン・システムとせまい一国社会主義をのりこえて、世界の中のソ連として向上し、そのやり方を180度廻転しなければおさまらぬ新しい時代がはじまっているのである。

自動車に例をとると、いくら金があっても、1年以上またねば順がまわってきて手にはいらない、とすると、貯蓄した金はドンドンねてゆくわけである。文字通りのインフレは、国家が売価を管理している以上、おこらないとしても、そこに精神的なインフレは当然はじまってくる。その破たんの突破口をつくるためにも、ここで今迄せばめていた消費的な門戸を大きく開いて第2の販売・消費革命にあたる必要が、必然的におこってくるのである。

◎ ソ連のデザイン界は新しい批判と向上の時代にはいった

私はモスクワからレニングラードにゆき、ウクライナ共和国のキエフからハリコフにいった。レニングラードは、モスクワと違って最も西欧に近

いバルト海に間接に面した都市であり、ピョートル大帝がロシアにおいて始めて石という材料をつかって西欧の建築家をつれてきて建設した都市である。建築のデザインの上の第2期として、「レーニンからピョートル大帝へ」という社会的リアリズムのモットーをかかげた歴史的事実がここにあるのである。当時建築材料はまだ石や煉瓦が中心でコンクリートではなかった。だから構成主義は夢であって、社会主義リアリズムを実現する可能性はない — と批判したのだ。といわれても仕方があるまい。

ピョートル・ザ・グレートはここでソ連の英雄として新しく引きあげられ、かくして大理石や煉瓦をおくめんもなくはりつけた第一期の地下鉄の新ソ連建築が登場してゆくのである。

今レーニンが丘から眺めると、スターリンの建築としてそのバックには、「モスクワ大学」が堂々とそびえ立ち、見はるかすモスクワのスカイラインは、同様な5つのクラシックな高層建築群で特長づけられている。しかしここ10年たっても、それははたしてほこるべきモスクワの姿として人々に印象づけられであろうか。まことに疑問である。

ポーランドのワルシャワのまん中には、ソ連から送られた同様な文化の大殿堂がそびえているが、ポーランド人はこういってそれを批判している。

「文化の殿堂にのぼると、ワルシャワが一番美しく眺めまわせる。それはあのいやらしい文化の大殿堂が全く見えないからである。」ハリコフ建築家協会では、ハリコフの中央広場に年代順にたった諸建築のうち、1926年にたった機能主義的な構成をもった工業会館を最もほこりとしている。そして「社会主義リアリズム」がおこるわずか以前に、世界の有数な建築家によって妥協なく試みられた「ハリコフ4,000人楽劇劇場」のすぐれたコンペとならべて、ハリコフの、2つの光がかがやくデザインとしている。

今その礎石だけすえられた勝利の公園には、コンコンとふき出す「平和の泉」がある。ハリコフ建築協会長はその当選者の1人である私をその泉のかたわらまで親しく案内してくれて、ソ連のこれからの新しいデザインのために、シッカリと握手をしてくれたのである。

ソ連のデザインは、まさに第2の販売消費革命をむかえて、全く新しい批判と向上の時代に突入したといえるのである。そして今後の10年を期してその異常な社会主義的な発展を再びこの目でたしかめたいものである。

◎ 独自の国家を形成し始めた東欧諸国

ソ連自身の中に、第三期のデザイン時代と第2次販売革命が始まったと同様に、西欧に一步も二歩も近い東欧諸国の中にも、最近大きな変化が見られるようになってきている。その建築やデザインの歴史を見ても、その造形感覚において、ポーランドもチェッコもハンガリーも、はるかにソ連といういわば田舎の国の上にあることは当然である。

ワルシャワに（ポーランドの主都）に夜ついて、ホテルの前にたって、その前にならぶ店舗の恐しく造形的なネオンのデザインにぶつかっただけで、私は久しぶりに魚が水を得たような感じにさらされたのである。

東欧諸国とは、ポーランド・チェッコスロバキア・ハンガリー・ルーマニア・ユーゴスラビア・ブルガリア・アルバニアそして東ドイツの8カ国である。ポーランド・チェッコスロバキア・ハンガリーは中部ヨーロッパを占める最も代表的なる国だし、ルーマニア・ユーゴ・ブルガリア・アルバニアはバルカン半島にはいり、東独は西独と分離したソ連圏にふくまれる。

第2次大戦末、ソ連によって解放され独立した、ソ連の衛星国または共

産主義ブロックといわれ、戦後のスターリン・ソ連は、これらの衛星諸国の忠誠のくさりでシツカリとまかれていた。そしてその政策も個性もすべてスターリンの縮小版であったのである。

ところが、時代がすすむに従って、チトーのユーゴーが独身の政策を先ずとったのが始めであった。そしてフルシチョフが登場して非スターリン化が始まるのに反比例して、ハンガリーとポーランドが反逆し、アルバニアが独自に歩みはじめ、経済的理由でルーマニアまで離反した。

前記の8カ国のうち、ユーゴー・ハンガリー・ポーランド・アルバニア・ルーマニアの5カ国が既に独自の国家を形成したといえるのである。スターリンが死ななかつた10年前、これ等の国はソ連の経済の模倣にあけくれ、一様に貧乏であった。重工業のみ偏重され、どの国も同じ商品をつくっていたので、交換しても全く利益をうることもできず、消費市場はお互いにやせほそるばかりだつた。その個性が発揮されると共に、各々が別々の製造工業を身につけ、独自の豊かな原料をもつようになるのである。フルシチョフはこれに気づいてコメコン政策（各自の専門化の政策）をとり、有無を交換するやり方をとろうとしたが、原料に乏しいチェッコや東ドイツの他は、皆喜ばなかつた。

フルシチョフのマルクス・レーニン主義の創造的な解釈には反対でないにしろ、ソ連という大資本にこの上上手に搾取されることをむしろきらつたのである。

18年間の平和のうちにさまざまな発展をとげた東欧諸国は全く一様でなくなり、ルーマニアのように食料品の豊富な国や、ポーランドのようないいスタイルのマネキンをもった国が現われ、チェッコでは繊維製品が全く自由になり、ハンガリーでは独自の自動車を駆ってブダペストからオー

ストリアのウィーンに週末旅行をこころみるなど、自らの資源・力・弱点をも再評価して、各々の国家的自覚が生まれ出してきたのである。

◎ 資本主義国家とも純粹の社会主義とも違うデザインと店舗を掴む

私はこの8カ国を全部まわって見たわけではないが、こんどポーランドとチェッコを歩いただけで、以上の傾向の強烈なことと、各自の歴史の歩みと別々な個性の上に、新しい政治的な解釈が生まれ、いわば西欧とソ連とを一緒にした、独自のものを生みつつあるのを察することができたのである。いわばマルクス・レーニン主義の新しい解釈も、いずれも別々なその模範を目ざして、そこに一種のナショナリズムを再発見しつつあるといえるのである。

そしてそのデザインにも店舗にも、資本主義国家にも見られないかといっって純粹の社会主義国のそれとも異なる、興味ある色々なヒントを掴むことができたのである。

まずポーランドであるが、それはユーゴーと共に、その大部分の農村がコルホーズ化さえされていないのである。従って都市と農村との徹底した平等の融合というソ連式な社会主義の理想は、別の形で達せられねばならないとされている。

それに西欧の芸術の影響を排除しようとするソ連の努力も、ポーランドについては殊にうつろなものに終る感じがおり、ウインドーからディスプレイやデザインの隅々に到るまで、あくまで明るく朗らかで、むしろイタリーやフランスの影響さえ感ぜられるのである。

ポーランドでは宗教的な精神復活運動が行われていて、復活したアルトスタット（オールドタウン）の中心にあった教会では、ソ連では全くみられ

なかった荘厳な旧教のミサを見ることができたのである。

チェッコでは、スロバキアなる東方の人々が — 殊にその作家や芸術家のあいだから、スロバキア自治をさげふ運動が行われ、首都ブラーグ（プラハ）でさえ、共産主義に対する反対の感情が高まっている。

ポーランドの首府ワルシャワは、第2次大戦のドイツの徹底的な破壊によって、かんぷない姿になったのを、現在殆んどその90パーセントまで復興されている。そしてその中央には30階建ての「文化科学殿堂」なるスターリン・システムまるだしのソ連式建物が、その後のソ連の征服・占領のつきもの然としてそびえたっているしかしワルシャワの人々にとっては、すでに過去の記念碑以外の何物でもなく、それは新しい都市計画によってとりのぞかれる運命にしかないのである。

チェッコの首府ブラーグ（プラハ）は、これに反して「百塔の黄金の都」の名の通りの古都が、ヴルタヴァ川をはさんで、ソックリのこっている。そのアルトスタットの中央広場には、宗教改革の先駆者であると同時にチェッコの民族独立運動のはたがしらであったヤン・スフとその弟子達の象徴的な群像が立っていて、ブラーグの現在をむしろ物語るような感じさえするのである。それでもブラーグは全体からいって、ワルシャワよりもソ連的な空気が多少こく、ディスプレイはドイツの影響をむしろ歴史的にドッシリと受けている感じがするのである。

ワルシャワの店には、国家でソ連式に管理しているのと、個人経営の店が並立しているのであるが、後者にはむしろ豆のような特殊な専門店が多く、しかもそれはノーヴィ・シヴィアト（新しい世界）通りという一街路に密集しているのは、面白い。モダンな新しい少し大きな店には、むしろ「公の店」が多く、そのサービス・陳列ともに気がきいていることも一考

すべき問題のように思われるのである。

昔のワルシャワが生まれた古い町は、ヴィスワ川の北のほとりに残っているが、これもその完全な破壊から、ソックリ昔の通り1つ1つのファサードや古い看板までていねいに復活させたもので、それが終ってはじめて新しい町づくりを始めたといわれている。ワルシャワの人々の気持がよくわかるのであるが、日本でこれと同じ運命にあって、これと同じ行動がはたしてできたかどうか、私には疑問に思うのである。

ブラーグの町は古い家とその町づくり、そして、その中からにじみ出てくる新しい職種や陳列とのそのコントラストが、如何にも面白いのである。5階6階の商店建築は、アール・ヌーボーやゼセッションを中心として、そのこまかい装飾に到るまで、如何にも店として巧みに工夫したものであることを、街全体が説明しているように見えるのである。そうした研究にはむしろローマやアテネなどより、このブラーグの方が興味があるように思うのである。

私は最後にハンガリーのブタペストからオーストリアのウィーンへとぬけたのであるが、そこに西欧の中で、社会主義的なデザインに移ってゆく漸進の姿を、順々ハツキリと見てゆくことができ、その意味する重大なポイントを明瞭に理解し、そして大いに勉強することができたのである。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

最後にこれ等の社会主義国家やむしろ西欧の一部と見なし得る東欧諸国のデザイナー達が、我々に何をのぞみ、そして何を自らのデザインに指向しているかについてふれたいと思う。

幸いウクライナ・ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー等では

先方からすゝんで我々に接触を申し込まれ、今までの一般のアメリカや西欧諸国の旅行では到底得られなかったデザイナー同志の交歓をまっとうすることができたのである。

彼等はその団体の組織・研究の方法にまでくわしくふれ、こん後の日本との密接な接触を心からまちのぞんでいるのである。

彼等は我々の少い日程をおしめ、すゝんで自ら案内役を買って出て、実に親切にこまごまとサービスしてくれ、そして食事をともにして、すばらしく切りこんでデザインの問題にまでふれてくる。

彼等の口をかりると、フランク・ロイド・ライトや、ル・コルビュジエの「初期の自由な流動する発明的な空間」についてむしろ高い評価を試み、例えば、アメリカにおちついたミース・ファン・デル・ローエの晩年の純粹な形だけを主張する傾向について、自己満足的という批判をしている。

そして資本主義社会における百花撩乱たるアナーキズム・個人主義・ネオバロック的な傾向に警告を発している。しかもかつてのインターナショナル・スタイルに見られる画一主義や非民族性にも反対し、むしろデザインに新しい民族性のリバイバルをまちのぞんでいる。

それは「人間生活の有機化」と「心理的な感受」を大きく解決して、そこに「デザインの機能的使命を処理」しようとのぞむからである。

そして、アメリカや西欧よりもむしろ我々日本や南米の最近の傾向を高く評価し、これに心から接しようときえしているのである。そしてついに私は次の機会に「日本の昔から現在までのデザインを解釈したスライド」をつくって、再び彼等とまみえることまで、かたく約束せざるを得なかったのである。

(本稿は川喜多先生の御好意により掲載させていただきました。今後は会員の皆様の原稿ものせて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。)

— 会 費 納 入 の お 願 い —

本年度も残り少なくなりました。

本年度会費は12月末で東京・大阪両支部とも約60%の納入状況で、会の運営にも支障をきたします。3月年度末までに必ず納入して下さい。

会 員 の 近 況

伊 藤 得 時 浦賀造をやめられて、KK高島屋装飾部に勤務されます。

白 石 勝 彦（松屋デザイン室） 自宅住所が下記に変わりました。

世田谷区上馬町1—852 真中第1住宅403号室

鈴木 誠 太 郎 日本産業工芸株式会社をやめ、この度KK高島屋装飾部に勤められました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
 ☆ 業 界 の う ご き ☆
 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ コスガ コンペ発表会

第2回コスガコンペ発表会は3月16日～21日まで第二コスガビルで開かれた。入賞作品は次のようである。

1 等 ローバツク チェアー デラックス

大友洋佑（早大建築今井研究室）

2 等 椅子 森川正造（高島屋東京設計部）

3 等 安楽椅子 二井健治（阪急デパート設計室）

佳作 安楽椅子 渡辺 優（渡辺デザイン事務所）

” ” 中川千年（山形工芸試験場）

” 安楽椅子(張包ミ) 坂本恒久（高島屋大阪設計部）

” 畳の上の休息セット 黒岩靖司（藤森健次建築設計事務所）

” 食卓 子 橋口敏雄（三好木工設計室）

” ベット 森川正造（高島屋東京店設計部）

” 居間用安楽椅子 並川拓史（そごう大阪店）

” ロッキングチェアー 高木彬夫（芦原義信建築設計事務所）

” ノックダウンチェアー 香西啓三（総合デザイン研究所）

” ユニット家具(育児用) 邑川尚志（新和総合デザイン研究所）

” 食堂小椅子 坂本恒久（高島屋大阪店設計部）

” 育児用椅子 野水ユキコ（竹内篤デザイン事務所）

準佳作 安楽椅子 原 好輝（東横デザイン室）

” 岩見 博（東横百貨店）

団地向ユニット家具 古川賀世子

肘付小椅子 梶田尚令（千葉大工学部建築学科）

ポータブル食堂セット 福井正明（高島屋東京店）

☆ 日家工 欧米視察団を編成

日家工では5月24日より32日間の予定で欧米視察団を編成することを決定し募集している。

☆ 東京家具マート落成

大倉商店ではかねて越ヶ谷に商品の陳列と販売を兼ねた家具マートを建設中だったが3月17日落成した。

展示場は2階建約800坪、東武（地下鉄）新田駅下車自動車の便がある。

☆ 事務局より ☆

☆ 寒い冬もようやく終り、春がすぐ近くまで参りました。これから5月まで一番良い気候です。とかく『かまぼこ』のようになりやすい我々ですが、そろそろ外に出て体をきたえましょう。

☆ 4月新年度を前に、東京大阪両支部とも改選期に入りました。新らしい役員でこの会報も一段と新鮮なものにしたいと思います。

どうぞ、エネルギッシュな若手の方々の進水をのぞみます。

☆ 会報には会員の研究的記事をのせたいと思いますので原稿の御協力をお願いします。

日本室内設計家協会東京支部

東京都港区芝田村町5の15 今成ビル内

TEL (431) 4903

振替東京 76389